

非核の政府を 求める大阪の会



非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉
〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)
TEL.06 (6765) 3032 FAX.06 (6765) 3033
URL : https://hikaku-osaka.jp/
E-mail : hikakuosaka@hotmail.com
hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp

第188号 2018年 11月1日

ニュース

被爆者の想いをうけて
世界で数億、
府内当面100万目標の

「ヒロシマ・ナガサキの 被爆者が訴える 核兵器廃絶国際署名」 にとりくもう!

核兵器 なき 世界へ

映画とトークのつどい

ヒロシマ・ナガサキから七三年が過ぎ、被爆者も高齢化していくなか、一昨年から日本被団協が中心となつて、被爆者が世界の人々に呼びかける「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」が始まりました。世界中から数億人の署名を国連に提出するのが目標です。この運動を支援する

「12・1」核兵器なき世界へ映画とトークのつどい」に参加しましょう

ため、原水協、原水禁国民会議、創価学会平和委員会、日本生協連などのさまざまな団体が「署名推進連絡会」をつくっています。大阪でも、昨年一二月、生協やYWCAをはじめ、幅広い団体によつて、「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」が結成されました。そして、昨年七月には、国連で核兵器禁止条約が一二二カ国の賛成で採択され、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）がノーベル平和賞を受賞するなど、国際的に、核兵器

廃絶の機運がかつてないほど高まっています。しかし、核兵器保有国は禁止条約の成立に反対し、日本もそれに追随しています。唯一の被

爆国日本としては恥ずかしい限りです。大阪の会は、ヒバクシャ署名を広げるとともに、核兵器廃絶の世論を高め、日本政府に条約の締結・批准を求めようと、来る一二月一日に「核兵器なき世界へ」映画とトークのつどいを開催します。原爆にかかわる映画三本の上映と映画監督・女優・ヒバクシャのトークで、もう一度被爆の原点に立ち返り、核兵器と人類は絶対に共存できないものであることを、参加者とともに確認していきたいと考えています。これまでこの運動に参加したり、関心をもつてこられた方だけでなく、まったく関与してこられなかった方に特に参加いただきたいということから映画とトークという内容で企画しました。映画は、アニメ、ドキュメンタリー、ドラマの三本の上映で、見る人の関心に答えられるようにしています。

是非、たくさんの方に参加をお願いします。
(梅田章二ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会事務局長)

- 【非核五項目】
- ① 全人類共通の緊急課題として核兵器の廃絶を求め、核兵器保有国に非核三原則を厳守する。
 - ② 日本は核武装を断念し、戦後70年を振り返り、核兵器の廃絶を求め、核兵器保有国に非核三原則を厳守する。
 - ③ 国連安全保障理事会に核兵器の廃絶を求め、核兵器保有国に非核三原則を厳守する。
 - ④ 国家の補償措置による被爆者の救済を促進する。
 - ⑤ 原水爆禁止国際条約の締結を促進する。

■日時 12月1日(土)
午後1時30分～午後8時

■会場 エルおおさかホール

■参加協力費 1000円(障がい者、高校生以下無料)

■後援 朝日新聞社

■共催「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」「12・1核兵器なき世界へ」映画とトークのつどいを成功させる会

映画&トーク

シリーズNo. 9
宗教者と非核平和

嘘

つきは泥棒
のはじまり

真宗佛光寺派
正念寺住職 長田謙



今年末に京都の清水寺管長さんが揮ごうする一年を表す漢字は「嘘」だと私は思います。昨年から続く、国有地をただ同然で森友学園へ払い下げた森友疑惑。安倍首相のお友達が理事長を務める加計学園への獣医学部の新設にかかわる加計疑惑。これらに対する国

会審議のお粗末きまわらないこと。

公文書の改ざんは日本の歴史を「嘘」で塗り替えることです。公文書の隠蔽も国民に対する官僚の「嘘」。「無い無い」と言い続けた文章が、内部告発を受け、言い逃れが出来ないとなれば、「ありました」となる。極めつけは、安倍首相の発言「疑惑のウミは出し切る」と何度も発言。国会前には「ウミはお前だ」と嘘を見抜いたブラカード。

沖繩への核の持ち込みは「非核三原則を厳守」という歴代自民党の政府答弁が「密約」という名の日本国民への嘘と偽りであったことが明らかに。仏教では「十悪」に妄語(もうご)綺語(きご)悪口(あくぐ)両舌(りょうぜつ)といつて、四つも口にまつわる戒めが説かれている。庶民の中でも嘘つきや二枚舌の人は信用されませんが、国家の権力者が嘘や二枚舌を

使い、反省もしない。すでに日本は民主主義を切り捨てられた独裁国家なのかと疑いたくもなる。

「嘘つきは泥棒の始まり」と言うが、国民の財産・文化的で最低限度の生活・沖繩の豊かな自然を奪われてなるものか。えんま様に代わり国民世論で嘘つきを成敗し、故翁長沖繩県知事の意を継いで、核も基地もない沖繩と日本をめざし「あきらめない」。

原

発と原爆
の同異(3)

速度は異なるー
利用する中性子

松山奉史

U-235は一回の核分裂で二個のnを放出すると仮定した解説図から、原発と原爆における核分裂連鎖反応は各々式一と二で進行していることを前回に述べましたが、一、二の反応が定常的に進行す

るためには実はU-235がある一定量以上に存在することが必要です。その最小値(通常、重さで表わす)を臨界量と呼びますが、この量には常に一定という定まった数値があるわけではなく、用いる条件によって様々に変わります。特に、原発の燃料体や原爆の炸薬部の形とそれらに含まれるU-235の密度(含有量)は臨界量を支配する代表的な条件になっていきます。形

こうなると反応一、二はもはや維持できなくなり、連鎖反応は停止してしまいます。これが臨界という言葉の意味でもあるのです。

件には球状、棒状、板状などがあり、密度には天然のレベル(〇・七%)のものから濃縮したもの(三〇五%、二〇%、一〇〇%など)まであり、どの条件を選択するかによって式一、二が成立するための臨界量は異なるというわけです。一方、反応一、二が進むとともにU-235が消費され数が減少していきますから、いつかU-235の量は臨界量以下になるはずで

ところ、現在日本にある原発の大部分は軽水炉あるいは熱中性子炉と呼ばれており、原子炉のなかには軽水(通常の純粋な水)が入っています。ところが、原爆には軽水や軽水に代わる物質の存在は一切ありません。この違いはどんな理由から来ているのか知りたくなりませんが、結論を言ってしまうと、実は原発でのU-235核分裂には低速中性子(熱中性子)を利用しており、原爆での核分裂には高速中性子を利用している、ということから来ています。従って、これまでよく出てきた式一、二については、式一中のnは低速中性子のことであり、式二の中で記したnは高速中性子のことでありと理解する必要があります。何故こうなっ

ているのかということ、上述の臨界量を支配する形・密度と関連づけて次回に述べる予定ですが、その予備としてU-235とU-238の核的性質について少し触れておきます。U-235は一個のnを吸収して核分裂を起すと、厳密には平均二・四二個のnを放出します。このnは約二MeVの運動エネルギーを持っており、速さは毎秒約二万倍(二秒で地球を一周する)という高速のnです。これが他の原子や分子と衝突を繰り返すと衝突のたびにエネルギーを失い、ついには相手原子・分子の熱運動エネルギーに相当する運動エネルギー(約〇・二五eV)を持つようになり、熱中性子と呼ばれる。そのときの速さは毎秒約二・二倍という低速です(放出直後の値の約四分の一の速さ)です。

U-235の核分裂のしやすさには「4分の1則」という法則が

成立しており、nの速さが小さいほどU-235は分裂しやすくなります。この法則があるため、熱中性子に対する分裂のしやすさは高速中性子に対するしやすさの約三〇〇倍もあります。

U-238は一、MeV以上の運動エネルギーを持つ高速中性子を吸収すると核分裂を起す可能性がありますが、その値は同じエネルギーのnに対するU-235の場合の四分の一ほどなので、U-238の核分裂は起こりにくいと言え、熱中性子では全く分裂しません。但し、エネルギーが一eV〜10keVの領域（共鳴領域という）にあるnを捕獲する性質があります（捕獲しても核分裂はしません）。この性質は、言わば、nを食い物にするだけの現象をもたらすため、U-238はU-235の核分裂連鎖反応にとっては邪魔な存在となります。

被

爆者の思いを引き継いで・若者として三・一ビキニデーに参加して

（五月号から続編）

安倍首相には、「対話のための対話に意味なし」と言い、トランプ米政権による新たな核戦略指針「NPR」をも「高く評価する」という世界の流れとの逆行ぶりがまざまざと見せつけられる。

誰を見て政権運営をしているのか。被爆者の声が、市民社会の声が、世界の声が、聞こえていないのか。聞こえないなら、聞こえるまで、声を上げ続ける。聞かせるところまで、追いつめる、その声を大きくしたい。ビキニデーに参加して、非核



を求め、長い長い月日を闘い続け、世界

のあらゆる人と手をつないで進めてきた核廃絶運動にこそ、展望があると確信した。

分科会では、特別企画・パネル討論「北朝鮮と核問題―非核平和のアジアをめざして」に参加。この間、成人式宣伝や入試宣伝で、「北朝鮮のミサイルが怖い」「やられる前にやってしまったらいいでしょ」という本音でないことを祈りたくな

ような言葉も聞いてきた。多くの青年から不安の声があがっている。北朝鮮との関係。そこに私たちがどんなことを伝えていけるのか、だれもが願う「非核平和の展望」がどこにあるのかを深めようという思いで参加した。

パネラーの川田忠明さんが、「安倍首相は戦争が起きたらどうなるのか、一切しゃべらない。北朝鮮が核で日本を鎮めると言っておいて、自分たちのやりたいこと（九条改憲と軍拡）を進める。平和運動は、朝鮮半島で戦

争が起きたら、日本でとんでもない被害が起こる、戦争だけは絶対

にやってはいけないことという世論をつくる必要がある」と語られ、その言葉がスツと入ってきた。難しいことを考えなくても「戦争はイヤ」、この当たり前にもなっている国民の思いを信じて、事実を示して、自分や自分の愛するものに思いを馳せ、想像したいと思う。街で出会う一人ひとり、一回一回の対話で、核抑止力論や分断と敵対を大きく乗り越え、ともに平和を想像し、「本当はどうしたいのか」を考え合える空間を作っていききたい。

二日目には、献花墓参平和行進をし、ビキニ水爆実験の犠牲となった久保山愛吉さんの墓前まで歩き、三・一ビキニデー集会に参加した。久保山愛吉さんの「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」という言葉は、私

たちに問いかけているように思う。

第五福竜丸元乗組員の大石又七さんは、「安倍首相はアメリカ追隨に躍起になっ

ている。太平洋戦争の戦時中に今よく似ている」と不安を語り、自分よりも若くして逝ってしまった仲間を思い、悔しさをにじませていた。人の手で作られた核兵器は、人の手でなくすことができる。核使用が、甚大な被害を及ぼし、非人道的な武器であることは、私たちは歴史からも学んでいる。そんな歴史をもつてして、三度同じことを繰り返すことは本

当に許されない。一刻も早く、日本に核兵器禁止条約の批准を迫り、被爆者が生きている間に、非核平和の日本を実現する運動を大きく進めたい。

二日間のビキニデーの参加を通して、改めて、核兵器禁止条約ができたことがどういう意味を持っているか認識した。世界と逆行する日本政府の態度は、

許すことができないが、世界は、間違いなく、対話”で解決を進めよう

としていることに力をもらった。北朝鮮の方がよほど理性があり、アメリカ追隨に躍起になって理性を失った安倍首相には、「日本を守ってもらいたくない」とはっきりと言いたい。世界の流れをつくってきたこの流れに確信をもって、日本政府に「核兵器禁止条約こそ平和への道だ」と言わせるためにも、ヒバクシャ国際署名、ひいては直近で安倍首相が狙う改憲に反対する安倍九条改憲NO!の署名を青年のなかで語り広げ、「青年は右傾化していない!やっぱり戦争はいやなんだ」の思いを世論にして広げていきたいと思う。

改めて今回、代表として派遣していただいた「非核の政府を求める大阪の会」の皆様にご感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

ありがとうございました。

